

第3 障害者スポーツ文化センターラポール運営事業

横浜ラポール及びラポール上大岡は、市内唯一の障害児・者のスポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、障害児・者の多様化するニーズに即した事業を行いました。事業の実施にあたっては、多様なプログラムの展開、地域資源との連携を強化した取組、障害者のスポーツ・文化活動に関する積極的な情報の発信に努めました。重点をおいた項目は、次の3項目です。

- ◇ 横浜ラポールの総合受付に、会話内容がディスプレイに文字表示される機器の設置、また、横浜・上大岡施設ともに、緊急情報設備に放送と文字映写が同時に行える機器を導入しました。障害種別ごとの理解と対応について、館内の委託業者を含めた職員研修を実施し、職員スタッフの応対力向上に努めました。その他、重度障害者が参加しやすいプラネタリウム体験や運動あそびの広場などのイベントをスポーツと文化事業ともに開催しました。
- ◇ 学校や障害者福祉施設等がスムーズに施設利用ができるように、コーディネートに努めました。10月から令和8年3月までの期間、横浜市が行う特定天井等改修工事でプールを閉鎖するため、その期間中の代替施設として、横浜市スポーツ医科学センターのプールを日曜日に貸し切りで確保し、プール利用団体の活動が継続できるよう調整しました。また、同工事のため、ラポールシアターも閉鎖したため、港南区民文化センターひまわりの郷など市内の他施設と連携してイベント等を開催しています。
- ◇ ホームページの利用については、情報発信サイト「ラポール For Smile」を活用して、教室等の案内に加えて、実施後の報告を行い、新たな利用に繋がるように配慮しました。

(実績)

※()内は昨年度

施設名	開館日数	施設利用者数
横浜ラポール	345 日 (346 日)	264,219 人 (298,616 人)
ラポール上大岡	306 日 (307 日)	29,067 人 (27,651 人)

1 スポーツ振興

- ◇ 競技団体及び関係団体と連携して、バスケットボール教室及び強化練習会を実施するとともに、普段移動に車椅子を利用されている方が、様々なスポーツに触れ・楽しむことができる車椅子スポーツ体験会を開催しました。
- ◇ リハセンター研究開発課と連携して、電動車椅子サッカーを手軽に楽しむことができるよう、普段使用している車椅子に取り付けることができるフットガードの開発に取り組むとともに、開発した機器を使用したモニター体験会を特別支援学校およびラポールで開催しました。
- ◇ 40 を超える障害福祉施設等に対して出張支援を行いました。また、一部の地域では、近隣の施設間の交流を図る取組を行うとともに、市内 11 ヶ所で障害のある方が参加可能なスポーツイベントを関係団体と連携して行いました。

(実績)

※()内は昨年度

スポーツ大会・交流イベント	参加者	1,282 人	(1,452 人)
リハビリテーション・スポーツ教室、相談等	参加者	3,934 人	(3,831 人)
スポーツ・レクリエーション教室	参加者	1,638 人	(5,479 人)
障害者スポーツ指導員・ボラ研修等	参加者	590 人	(534 人)
地域での支援事業（ラポール上大岡含む）	参加者	5,152 人	(2,075 人)

2 文化振興

- ◇ 巨大壁画作りのアートワークショップでは、重度障害のある方が文化芸術活動に参加しやすい取り組みとして、広い場所でゆったり活動できるよう、一般枠とは別の時間帯を設けました。また、事業所支援の一環として重度障害者施設での創作活動を行い、その様子や成果を紹介した作品展を実施しました。おもちゃ図書館事業では、重度障害児童向けにプラネタリウムの体験が出来るイベントやおもちゃのモニタリングイベントを実施しました。
- ◇ 障害者アーティストの育成として、横浜市で実施した「チャレンジドウィークフェス 2024」プレイベントにおいて、ライブペイントの実施やシンガーソングライターのミニコンサートを実施しました。また、ラポール美術展での新規出展者を中心に、横浜市役所で実施した障害者週間での展示等に参加していただきました。
- ◇ 工事で一部施設が利用できないため、横浜ラポールで実施していた事業の一部を他会場で実施しました。港南区民文化センターひまわりの郷で「横浜ラポール芸術市場」舞台発表、横浜市吉野町市民プラザで「DANCE@RAPPORT」をそれぞれの館と共催にて実施しました。

(実績)

※()内は昨年度

	件数	参加者数
講座・行事	74 件 (61 件)	12,178 人 (12,194 人)

3 聴覚障害者情報提供施設

- ◇ 令和 6 年度から横浜市要約筆記者登録試験とそれに付随する事業がラポールの指定管理事業となり、試験対策講座については年 8 回実施し、延べ 23 人が受講しました。また、横浜市要約筆記者登録試験については、近隣の伊藤研修センターを借用して実施し、受験者 25 人中、手書き 6 人、パソコン 2 人が合格しました。
- ◇ 手話や聴覚障害の理解を広める出前講座は、地域の支援者対象に 13 回実施しました。老人クラブ連合会での周知をきっかけに、加齢性難聴に関する講座依頼が増えており、聞こえの相談につながるよう取り組みを継続します。若年層の手話通訳者増を目的とする講座は、フェリス学院大学、関東学院大学で開催しました。
- ◇ 手話等派遣ニーズへの対応力を高めるため、初任者・課題別と全体の手話研修を 25 回、初任者、現任の要約筆記研修を 32 回と実施しました。講義形式はオンライン、実技や事例検討は集合とし、目的によって形式を分け、より効果的なスキルアップに努めました。

(実績)

※()内は昨年度

手話・筆記通訳派遣	延べ 12,461 人	(延べ 13,025 人)
聴覚障害者相談	延べ 1,247 件	(延べ 1,423 件)

4 ラポール上大岡

- ◇ 横浜市パラスポーツ指導者協議会をはじめ、各区のスポーツ推進委員やさわやかスポーツ普及委員を対象としたスキルアップ研修を実施しました。障害者との交流と、支援技術の向上を目的に、ラポールが実施する事業に参加する機会を提供しました。
- ◇ 就労支援施設利用者の体組成を計測し、健康体力づくりに対する動機づけを行いました。施設の单元ごとの隙間時間を活用して、健康体操の導入を行いました。また、地域の事業所に対してラポールの事業概要を説明する機会を設け、実際の利用につなげました。
- ◇ 横浜市スポーツ協会との定例会議を設け、パラスポーツの普及・強化策について検討しました。バスケットボールをテーマとしたインクルーシブな参加型イベントを共催で実施したほか、各区で開催されたインクルーシブイベントに参画しました。

(実績)

※()内は昨年度

地域支援（横浜ラポール含む）	参加者	5,152 人	(2,075 人)
主催プログラム	参加者	20,706 人	(19,214 人)
共創パートナー事業	参加者	1,333 人	(4,867 人)